



羽田新ルート・氷塊落下事故に対して
国交省に、徹底調査と運航中止求める

羽田空港新飛行ルート直下の本町 1 丁目のテニスコートに氷塊が落下した事故について、日本共産党渋谷区議団は3月29日、国土交通省に聞き取りするとともに、(1)原因の徹底究明と住民への説明。原因究明まで新飛行ルートの運用中止。(2)新飛行ルートそのものの運用停止の2点について要請しました。山添拓参議院議員も参加しました。(写真) ※要請文は裏面参照

国土交通省は、氷塊落下について「飛行機から落ちた可能性は極めて低いと考えており、調査も終了した」との態度でしたが、聞き取りで、氷塊が飛行機から落下した可能性について「ゼロではない」と答えざるを得なくなりました。



区議会第1回定例会は、3月25日の本会議で、すべての議案を表決して閉会しました。
日本共産党区議団は、コロナ禍が長期化する中で、区民のいのち、くらし、教育最優先の区政への転換、コロナ対策の抜本的強化を求めて、区長提案の予算に反対するとともに議員提案権を活用した予算修正や独自の条例提案を行いました。

渋谷区図書館廃止条例は、与党の賛成討論でも、図書館廃止後の施設をリニューアルして活用するよう求める意見も出され、条例上「廃止」

区議会第1回定例会・存続求める5764人の請願は不採択に
自民・笑顔・公明など、渋谷図書館廃止条例強行可決
与党が渋谷図書館廃止条例を多数で可決
区長提案の議案では、最大の焦点となってきた渋谷図書館の廃止条例に反対し、住民のみなさんからの存続を求める請願の採択するために力を尽くしました。

第1回定例会最終本会議での表決結果(抜粋)

※中間本会議の表決結果は除く

2022年3月25日

Table with columns: 議案, 可否, 共産党(4), 自民党(9), シブヤを笑顔(8), 公明党(5), 立憲民主(3), れいわ渋谷(2), 鈴木議員, 須田議員. Rows include various proposals and resolutions.

する根拠はまったく成り立たなくなりました。また区民

からは、存続を求める5764人の請願署名が寄せられました。この区民の願いを踏みにじって廃止を強行したことは許されません。廃止条例に対しては、党区議団を代表してトマ孝二議が

反対討論を行いました。(裏面掲載)
また、牛尾まさみ議員が区長の予算案に対して、田中まさや議員が組織条例の一部改正条例に対して反対討論を行い、五十嵐千代子議員は、国民健康保険料を引き上げないことを求める請願に対する賛成討論を行いました。

廃止条例に道理なし、区民の声を尊重して存続を

渋谷図書館廃止条例に対するトマ孝二議員の反対討論

反対理由の第1 地域の宝
もので、文化・教養・教育の拠点である渋谷図書館を廃止することは許されない

渋谷図書館は、大正4年（1915年）に渋谷区で最初につくられた図書館で、昭和52年（1977年）に現在の東1丁目に移転改築され、昨年度は1日200人、年間53700人が利用する図書館です。

利用者や住民にとって渋谷図書館は、静かな環境で本や資料を閲覧し、学ぶことができる。子どもたちは、児童室で好きな本を読むことができる。かけがえのない施設となっております。

区立図書館について、条例の第一条で「区民の教養・調査研究、レクリエーション等に資する」と定められています。その大切な施設である渋谷図書館を一方的に廃止することは、条例に反し、区の責任を放棄するもので、断じて認められません。

反対理由の第2 区が渋谷図書館の廃止理由に挙げた老朽化の責任は区にあり、廃止の根拠として成り立たない

渋谷図書館の廃止理由について、長谷部区長は突然、エアコンが故障し修理不能、建物が老朽化し、雨漏りしているなどとしています。

しかし、渋谷図書館がこうした状況になっていくことについて、長谷部区長は、区議会はもとより、利用者や住民に一切知らせず、突然廃止を打ち出してきたのです。このやり方は、あまりにも乱暴で道理がなく、区議会は全会派一致で継続審議としました。また、地元住民は渋谷図書館を存続してほしい、という声をあげたのです。

今回の渋谷図書館を廃止するという事態が起こったのは、屋上防水工事を30年もせず、雨漏りを発生させてしまった区の施設管理に責任があります。この責任にほうかむりし、利用者・住民に負担や不便をかけ、挙句の果てに廃止を強行することは行政として許されないことです。

どんな公共施設でも、老朽化すれば、休館して、改修や建て替えるのが当たり前です。老朽化は条例上の廃止の根拠として成り立ちません。この条例こそ廃案にすべきです。

改めて、長谷部区長の区民の大切な文化施設である図書館を廃止するという姿勢が厳しく問われています。

第3の理由 区長のトップダウンで、住民の声を無視して廃止を強行することは認められない

区民の共有財産である渋谷図書館について、現状を利用者や地域住民に知らせ、どのように改善していけばよいか、話し合いを進めていくべきですが、そうしたことも行わず廃止することは、利用者、住民無視の暴挙と言わなければなりません。

今議会でも長谷部区長は、渋谷図書館について、突如、広尾中学校を建て替えて、そこに図書館を設置すると発言しました。委員会の質疑では、広尾中学校の図書館の設置自体今年1月に決められたことが明らかになりました。

当然、広尾中学校に今年入学する新1年生は、まったく知らされないまま学校を選択し、区長の提案した計画通り進めば、中学3年生の受験期は、仮設校舎での不自由な生活が余儀なくされることとなります。子どもや学校関係者、住民にとってこれほど理不尽な話はありません。

しかも広尾中学校の建て替え自体が、関係者の合意形成が得られるかもわからず、図書館存続のロードマップと言えないもので、区民を欺くものです。廃止条例が提案されて以来、日本共産党区

議団には、存続を求める多数の声が寄せられています。「渋谷図書館は立地が良く、行くことが楽しみでした。コロナ禍で収入が減ったり、失業を余儀なくされ本を買う余裕のない人が多いと思います。そんなとき本に出合うことができるヒントや元気をもらえると思う場所です」

「渋谷図書館は、8数年前から子どもたちが利用し、また孫たちも利用していた図書館です。親として子どもを成長を喜び安心して通わせられる場所でした。ぜひ、地域住民から文化的施設を奪わないでください」などの声が多く寄せられています。

また、今議会に5764人という大勢の方から「渋谷区立図書館の廃止条例見直しを求める請願」が提出されており、100年の歴史があり、利用者が多く、地域の宝ものである渋谷図書館を存続してほしいという願いが込められたものです。

今回の条例は、利用者、住民の願いに反し、区民の大事な文化・教養・社会教育の施設を区長の独断で廃止するもので、まったく道理のない条例であり、どう考えても認めることはできません。否決すべきです。以上、反対討論とします。

羽田空港新飛行ルートに関する要請書

3月13日、午後3時30分ごろ、渋谷区本町1丁目のテニスコートに航空機からのものとみられる氷塊が落下する事件が発生した。

国土交通省は国会答弁で、「落下物のリスクをゼロにすることはできない」と答えてきたが、氷塊落下が現実には起きたことに、住民からは、いのちにもかかわる重大問題として怒りと不安が声が出ている。

渋谷区議会では、昨年9月の第3回定例会で、「羽田新ルートの運用停止を国に求める意見書」を決定し国交省にも提出してきた。また、これまで数次にわたって開かれてきた国交省との懇談の中でも、毎回、落下物の危険の指摘がなされてきた。

国土交通省は、「航空機から落下した可能性は極めて低い」として調査を打ち切ったが、住民はこのような国交省の対応を容認しておらず、かえって不信をつのらせている。今回の氷塊落下が航空機によるものでないと断定できない以上、新飛行ルートの危険性を事実で示したものと受け止め、厳重に調査すべきである。

日本共産党渋谷区議団は、国土交通省に対し、以下の点について強く要請する。

- 1、氷塊落下の原因を徹底的に究明し住民に説明すること。また、調査結果が明らかになるまで新飛行ルートの運用は中止すること。
- 2、新飛行ルートの運用停止を決断すること。